

■ ■ ■ ■ ■
□原色版『伊太利所見』は遙々羅馬より寄せられしもの、原圖と同一大なり。『山百合』は奥州嚴美溪にて昨年七月寫生せしもの、一尺二寸に八寸。『夏の靖國神社』は八ツ切大なり。

□次號原色版は、水野以文氏の『夏の夕暮』。小林重三氏の『花の寫生』二面附。並びに大下氏の『松島の夕』を出すべく、丸山晚霞氏の渡歐所見、渡部審也氏の尾の道寫生等木版として挿入さるべし。

□本誌は漸次内容を改めし結果、近來大に部數を増し、經濟上に多少の餘裕を見るべき見込につき、九月號より每號原色版四枚を挿入し、日本水彩畫會に於ける新進作家の逸品を漸次掲出すべし。

□本會同人眞野紀太郎氏は、先頃より病氣入院中につき、桂淵畫會の製作は多少遅延すべく、また特別讀者にして同氏の作を望める方には當分御猶豫を願ふ。

□本誌八月號送り先變更の方は二十日以

前に御通知ありたし。

□會友諸君よりの批評畫は本月五日迄に送られたく、然らざれば九月迄其儘お預りするの止むなきに至るべし。

□會友にして文房堂割引券御入用の方は郵券を添へて申出でられたし。

□日本水彩畫會研究所は、七月中旬より九月初旬迄夏期休業につき、其間の御用の方は春鳥會へ申出でられたし。

□本會にて取次せる太平洋畫會第九回展覽會カタログは、送料共一部金五十錢なり、右割引價格未定のころ注文され、取次送付せし二三氏よりは、たしか六十錢申受けたりと覺ゆる故、六十錢拂込みし人は、他日誌代送金の際過剩十錢差引送られたし。

水彩畫夏季講習會規定

第一部

- 一、會場 未定(松江市内)
- 一、會期 八月五日ヨリ一週間
- 一、課目 墨繪及水彩畫ノ講話、室内及戸

外寫生ノ實習

一、講師 大下藤次郎先生

一、會費 記名料金五十錢(申込ト同時ニ

徴收スルモノニシテ會員出席セザル

トキト雖モ返還セズ)會費金壹圓(講習開始ノ日徴收)

一、宿泊料 本會ニテ指定セル旅舎末次本

町日出館ノ宿泊料ハ一日五十錢以内

一、申込所 松江市末次本町奥村芳夫(主催者)方

一、申込期限 七月十五日マデ(但期限後

ハ入會ヲ謝絶スルコトアルベシ)

○本會指定の旅舎に宿泊希望の方は豫め

申込み置かれたし。

○會員の携帯すべき器具は、一墨繪ならば

畫學紙、畫板、消ゴム、小刀、HB印、BB印鉛

筆、留銀四個、水彩畫ならばワットマン

紙、繪具箱、畫板、HB鉛筆、水筒、木綿

一尺、尙室外寫生用として成るべく三脚

床几の類を携帯せられたし、但繪具は少

くも左の諸種を用意ありたし。

チャイニスホワイト。パーメントシンナ。

ガンボーヂ。インヂゴ。レモンエロー。

オルトラマリン。エロイオトクル。コバルト。グリーンリオン。セピア。クリムソン。レーキ又はカーマイン。ライトレット。以上

第二部

一、會場 福井縣敦賀町敦賀高等小學校

一、會期 八月二十一日より一週間

一、申込所 福井師範學校内野村厚生方

一、申込期日 八月十日限り

一、主催者 福井縣師範學校内H B會、

福井中學校内秋聲會

一、宿泊所 指定せし分は敦賀町若源に

して一日三十錢以上四十錢以内(但

充分の賄は出來ぬこと、御承知あ

りたし)

其他の事項は第一部と同じ

兩部を通じて婦人入會差支なく、また會

員は必ず洋服又は袴を着用すべし

問に答ふ

■一 鉛筆畫の出來上りし一部分を消し

て畫きかへるは悪しきことにや

■二 カルトンの販賣處及價格三 洋畫紙の缺點

四 東京にて研究所に入り研究するに下

宿料其他一切一ケ年何程を要するや(S

M生)◎一 一部分の修正をしたといふ

ことが明らかに分らぬ位ひ手際よくやれ

るなら差支はない◎二 東京の文房堂及竹

見屋にあり、一個六十五錢なり、東京洋

畫材料供給會に依頼せば多少の割引ある

べし、但カルトンは荷造に費用を要し、

又形大なるため小包郵便で送ることが出

來ぬから、それ等の費用を思へば地方で

畫板を作らせた方が利益であらう、◎三

何の事か分らぬ、若し洋畫紙に水彩を畫

く時の缺陥を知りたいといふのなら、色

の純白でない事、繪具の舒びの悪しきこ

と、洗ふことが出來ぬ等、重なるもの◎四

所費及消耗品其他にて研究費用は二圓

五十錢、自分の小遣二圓、下宿料普通十

圓程ゆへ、儉約して一ケ月拾五圓を要す

べし、自炊すれば幾分か安くならう◎文

部省展覽會へ遠地から出品する手續を知

りたし(玄海洋生)◎毎年九月頃になる

と出品規則が出るから、それに準じて文

部省へ願書の雛形を請求し、其願書を開

會前に出し、規定の日迄に現品を送れば

よいが、地方に在ては閉會後又は不合格

の際引取に困るから東京で代人を作つて

置く方が便利である◎夏期休暇中東京で

洋畫を研究したいが何か方法ありや(栃

木ノボル)◎赤坂溜池研究所にては夏中

有志の研究會あれど教師なし故初學者は

出席しても益なからん個人としては夏は

教ゆる人なし◎『みづゑ』四月號が十三

日に、五月號が十八日に當地書店に着せ

し由、實際そんなに發行が遅れるのによ

(自然子)◎特に前月に斷つて置た場合の

ほか、發行日より遅れた事なし、四月は

前月にも云ふて置たのと、石版印刷の都

合上八日に製本が出來、五月號は四月二

十九日頃に發行したから、遠方の讀者で

も五月三四日には手に入つた筈なり、六

月號は五月三十日に出來た◎雨を線をも

つて現はすのにホワイトを用ひては如何

(金葉禎三)◎手段は構はぬ、雨の感じ

が出ればよい、併し其手段が悪しきため

繪が下品になつたりしてはいけぬ、細い

雨を一本々々線で現はすよりも、雨の形